明るいめいほ

第27号
R4.3

発　行：明保地区明るいまちづくり協議会
〒320-0851
宇都宮市鶴田町 3668-36
明保地域コミュニティセンター内
TEL/FAX 028（648）7253
Eメール:miho_com@snow.ucatv.ne.jp

コロナ禍における地域活動・停滞自粛される

新型コロナウイルス感染症は一時、感染拡大が治まり、私たちの生活にも明るい兆しが見え始めた矢先、オミクロン株・第6波の襲来、コロナ禍の猛威と影響は身近な生活圏でも発生している状況にあります。

私たちのまちづくり活動も、殆どのイベントが中止し、書簡による会議、サークルやクラブ活動の小規模化や自粛が余儀なくされました。人と人の交流疎遠により、高齢化対策、支援や新しいまちづくり構築などの活動にも影響が出始めています。

第３回目のワクチン接種も漸くスタートし、その効果が期待されることを祈っています。

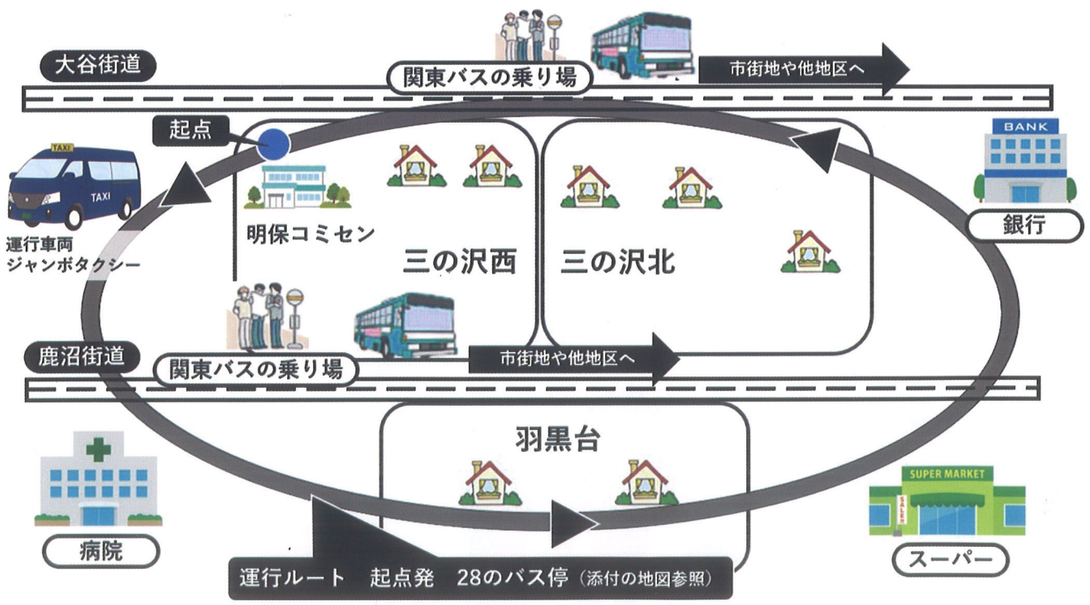
≪明保地区コミュニティ交通対策≫ 協力へのお願い

高齢化時代の足となる交通手段は、運転免許の返納や徒歩の困難性などから交通難民対策が必須の課題となります。

明保地区では一昨年、公共交通導入計画として「交通検討委員会」を立ち上げ〔総務企画〕〔運行計画〕〔資金計画〕の３部会により、夫々の課題について検討を進めているところです。

先の第１回アンケート調査では、日常的に使用している施設･外出目的、手段（乗用車、バス、タクシー、自転車、徒歩など）及び利用頻度、不便を感じている移動、生活交通の必要性などの設問に回答をお願いしました。（回答率 84,3%、関心度の深さが示されました）

この度、運行形態、運行日、時刻、ルート、車両（９人乗りジャンボタクシーを計画）運賃、地域負担金などをお示し、利用意向調査として第２回アンケートを行いますのでご理解を賜りご協力のほど、よろしくお願いします。



≪宇都宮雨情会≫発足

私たちのまち・明保地区は、日本三大童謡詩人に称される野口雨情先生が晩年を過ごし、終焉地となりました。まちには、雨情先生とつる夫人や子どもたちが住んでいた旧居があります。地区には雨情の名を付けた橋や陸橋などの公共施設があり、多くの団体、サークル、生活道路などにも雨情の名を付け親しんでおり、地区住民は雨情先生をこよなく愛し、尊敬の念を抱いています。

明保地区では雨情先生の終焉の日（１月２７日）の至近日曜日に雨情まつりを開催し、雨情さんが作詞した歌を地元の雨情合唱団、小学生、カラオケクラブが披露、雨情に関する講演などの活動を行っています。

明保地域コミュニティセンターのコミュニティコーナーには常時、雨情情報コーナーを設け、パネル・書籍類・年譜表・ジオラマなどを展示披露しています。

明保地区まちづくり協議会ホームページには、雨情情報コーナーを設け、雨情ゆかりのまちとしての情報発信を行っています。

明保地区には先人たちが築いた≪宇都宮雨情会≫の組織体があり、講演会・歌碑や記念像の建立、記念誌の発刊などの活動を行っていました。これらの活動も会員の高齢化や死去により３０余年、活動が休止したままになっていました。

この度、宇都宮市「みや文化遺産」への登録申請にあたり、登録団体として継続性のある組織体が必須条件であることから≪宇都宮雨情会≫の再発足に至りました。

令和３年８月21日に３５名の会員により発足総会を開催し、正規に発足しました。

規模を縮小し「梵天まつり」挙行
子どもの願い「かざぐるま」に込めて

コロナ禍のため昨年度は中止、今年度は羽黒神社氏子役員会議において取り計らい、感染防止に務めながら、規模を縮小した梵天（鉾先のみ）を献上することになりました。（１１月２３日）

明保地区では大人と子供の２基を、羽黒神社鳥居から参道階段をワッショイ、ワッショイと大きな声で揉みながら、神社まで担ぎました。

菓子などのバラマキや多くの観衆もない梵天まつりを少しでも盛り上げようと、明保地区梵天まつり実行委員会では黄色の「柚子色かざぐるま」２００個を青竹８本に括り付け、参道に飾りました。

「かざぐるま」は子どもたちが作成し、一つ一つに願いごとを書いてもらいました。２００個の「かざぐるま」から醸し出す風音が子どもたちの健全育成はもちろん、訪れる人たちの息災を願っているかのように厳かに聞こえていました。

＊この「かざぐるま」は正月明けまで設置し、羽黒神社への参拝者の方々にも鑑賞していただきました。

防災訓練（縮小規模）開催

コロナ禍の影響により、１１月２７日（土）規模を縮小した防災訓練を明保地域コミュニティセンターにて開催しました。

昨年度に引き続き中止することも考慮しましたが、防災会組織体制の強化、新規防災器材の導入などが図られたことから、通年参加者の１５％規模（防災会メンバー、婦人防火クラブメンバー、各団体長、各自治会正副会長の４０名程度）により、新規防災器材の使用確認、避難所開設時のノウハウ確認などに絞り込み、訓練を行いました。

防災組織体制につきましては、中村源治防災会長の熱心な姿勢のもとに、若手層の副会長３名がその任に就き、活用性のある避難機材の配備、役割分担など実践的な活動を推進しているところです。

明保地区の指定避難場所が地区外の明保小学校であること、住民が避難する場合「宮環」と「十郎ヶ峰の山越え」を経ることなどの課題があります。明保地区の特殊性を踏まえた避難場所の在り方については、行政や地元企業の協力支援を含めて協議する必要があります。また、明保地区に適合した住民の目線で活動できる「防災計画」の策定など、新しい体制のもとにそれらの活動が期待されています。

明保地区に子ども食堂 ≪キッチン・もぐもぐ≫オープン

子どもの「食」を支え、孤立をなくす居場所づくりとして、明保地区に子ども食堂が令和２年６月にオープンしました。オーナーは丸山明美さんで、新設経費は全て自費で賄いました。丸山さんは数年前から地域の子どもたちの健全育成に何らかの形で貢献したいと願っており、自営業の建築設計事務所で自ら設計を担い、器材などの手配を行いました。賄いスタッフは地域の仲間たちがボランティアとして参集しました。

毎週水曜日午後４時に開店、スタッフは当番制で献立レシピは定期的に皆で打合せの上、決めます。食材の買い出しはオーナー自らが担っています。時おり、近隣者の家庭菜園者や農協関係者などから米や野菜の提供支援を受けています。未来へ羽ばたく子どもたちの育成支援として、明保地区に芽生えた≪キッチン・もぐもぐ≫を地域の皆さんで支援しようではありませんか。

健康づくり推進協議会・宇都宮市長から表彰

明保地区健康づくり推進協議会は平成 20 年に発足、以来 14 年間、毎月の市周辺へのウォーキング、毎週のときめき脳トレーニング、ストレッチ教室などを開催するなど、大阿久三千子会長の熱心なリーダーの下、会員の活躍は宇都宮市のモデル地区として周知されています。

この度、これらの活動に対する実績が評価され、宇都宮市長から表彰されました。

おめでとうございます。

表彰状

明保地区健康づくり推進協議会殿

貴団体は多年にわたり健康教育活動に精励され本市の公衆衛生の向上に尽力されましたその功績は誠に顕著でありますので表彰します

令和三年十一月十六日

宇都宮市長 佐藤 栄

羽黒神社境内広場・恒例の落ち葉拾い

毎年 12 月に入ると、羽黒神社境内の広場は、落ち葉一面に変貌します。雨情寿会、もろこし倶楽部の老人クラブでは毎年、落ち葉拾いを実施し、訪れる近隣の方々に喜ばれています。

特に雨情寿会は恒例として、長年にわたって継続実施しているボランティア活動です。落ち葉は会員の家庭菜園や近隣果樹園の堆肥として活用されています。

コロナ禍の平穏を願いしめ縄作り

明保地区のしめ縄作り教室は約 20 年間、継続している伝統のある教室です。先達講師は横山皖一先生が長きにわたって講師を務め、現在 若林英世先生が引き継ぎ、７年目となりました。毎年参加する馴染み生も多々いるようです。

完成した、しめ縄は手作りに相応しい風格があり、コロナ禍を寄せつかないような威厳感を感じられます。

明保っ子・松本真優君が
全国小学生バトミントン大会にて優勝

第３０回全国小学生バトミントン選手権大会が１２月２６日～２９日、福島県郡山市で開催、男子シングル６年以下の部で明保小学校６年生の松本真優君が輝かしい優勝を飾りました。１１月にも「ジュニアバトミントンフェスティバル IN さいたま」全国大会にて優勝しており、２大会連続の制覇となりました。
明保っ子・松本君の輝かしい栄誉に対して、明保地区の皆で拍手を称えたいと思います。

松本君は登校班長を担っており、毎朝の登校時には下級生たちをしっかり見守っている、優しいお兄ちゃんでもあります。

おめでとうございます

広瀬さん・永年のボランティア活動
ありがとうございました

私たちのまちの雨情ボランティアクラブは旧今市市、有希ちゃん事件の一年前に発足し、１７年目となりました。

当初から広瀬秀男さんは児童見守り、防犯活動、環境整備など、会員の模範的存在として活動を続け、特に朝の登校時見守りは雨情の碑交差点において、月曜～金曜日まで１７年間、春夏秋冬、児童の安全見守りを続けてきました。朝のマイカー通勤者の方からかも注目される広瀬さんでした。

この度、健康上の都合により、ボランティア活動を断念することになりました。広瀬さん永い間、本当にご苦労さまでした。ありがとうございました。